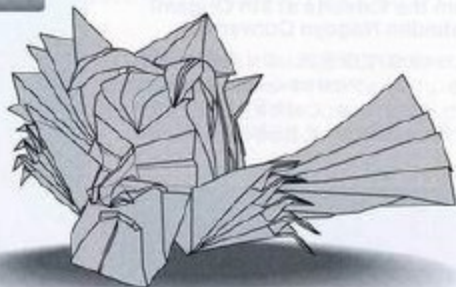


SHIBARAKU-HEAD

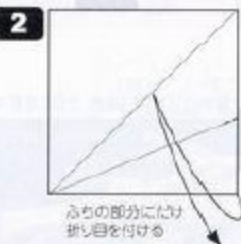
©HOJYO Takashi 2009

創作・図・北條高史

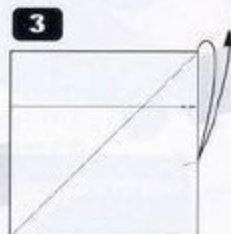
創作2009/11/15 作図2010/01/10



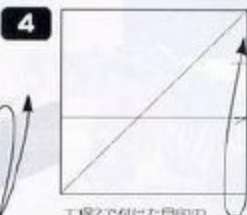
1辺35センチ以上の紙を推奨
両面の色が同じ紙を使用する
図では理解の便のため表裏を
色分けしてある



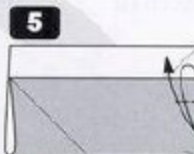
ふちの部分にだけ
折り目を付ける



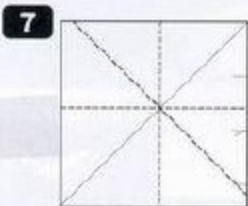
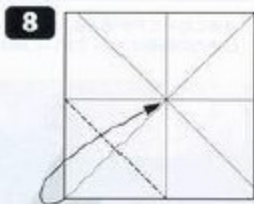
工程2で付けた目印にカドを
合わせてふちの部分だけ
折り目を付ける



工程2で付けた目印の
ところで折り上げるが
ふちの部分だけを折る
ようにする



工程3で付けた目印のところで
ふちの部分にだけ折り目を
付けたのち全体をひらく



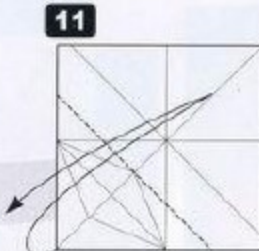
工程6で付けた折り目を基準にして
折り目を付ける
次の図からは工程2～6で付けた
目印を表示しない



工程5で付けた目印と
左上のカドを揃えた状態で
対角線上にだけ折り目を付ける



折り目を
付けたのち
全体をひらく



交点の位置で折り目を付ける

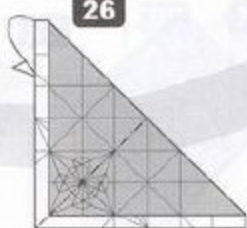


交点に合わせて折り目を付ける

25



26



27



上端部分を工程18~20と
同様に折ったのち全体をひらく

24



裏側も工程22~23と
同様に折ったのち全体を
ひらく

28



23



22



21



20

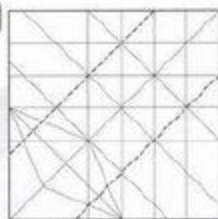


19



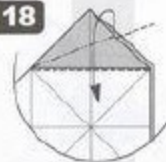
ひらきつぶす

15



交点の位置で折り目を付ける

18



ひらきつぶす

14

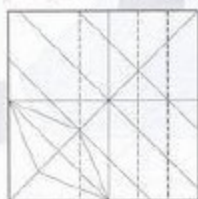


交点の位置で折り目を付ける

16

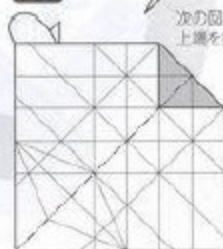


13

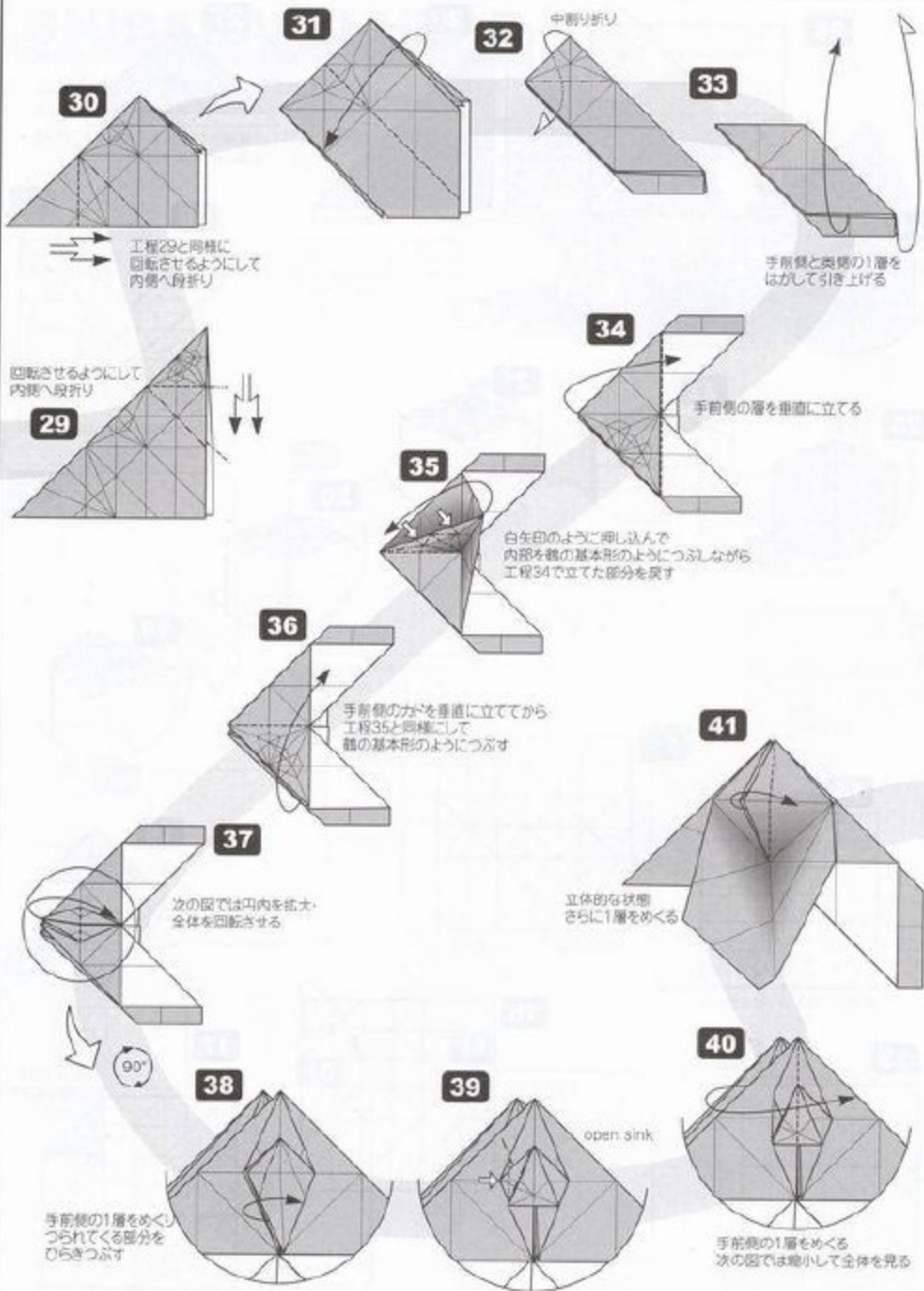


交点の位置で折り目を付ける

17



次の図では
上端を拡大



51

立体的な状態
カドを下側に倒す

52

立体的に
なっている
部分をとじる

50

カドを回転させる
ように折る

53

上端のカドをひとつ
折り下ろしながら
袋状になっている部分を
右側にひらく

49

手前側の1枚をめくる

48

手前側の1層だけ
折り目を付ける

47

open sink

42

へこんだ部分を裏側から上方へ押し出す
下端から立ち上がってきたカドは右側に倒す

46

手前側の1層に
折り目を付ける

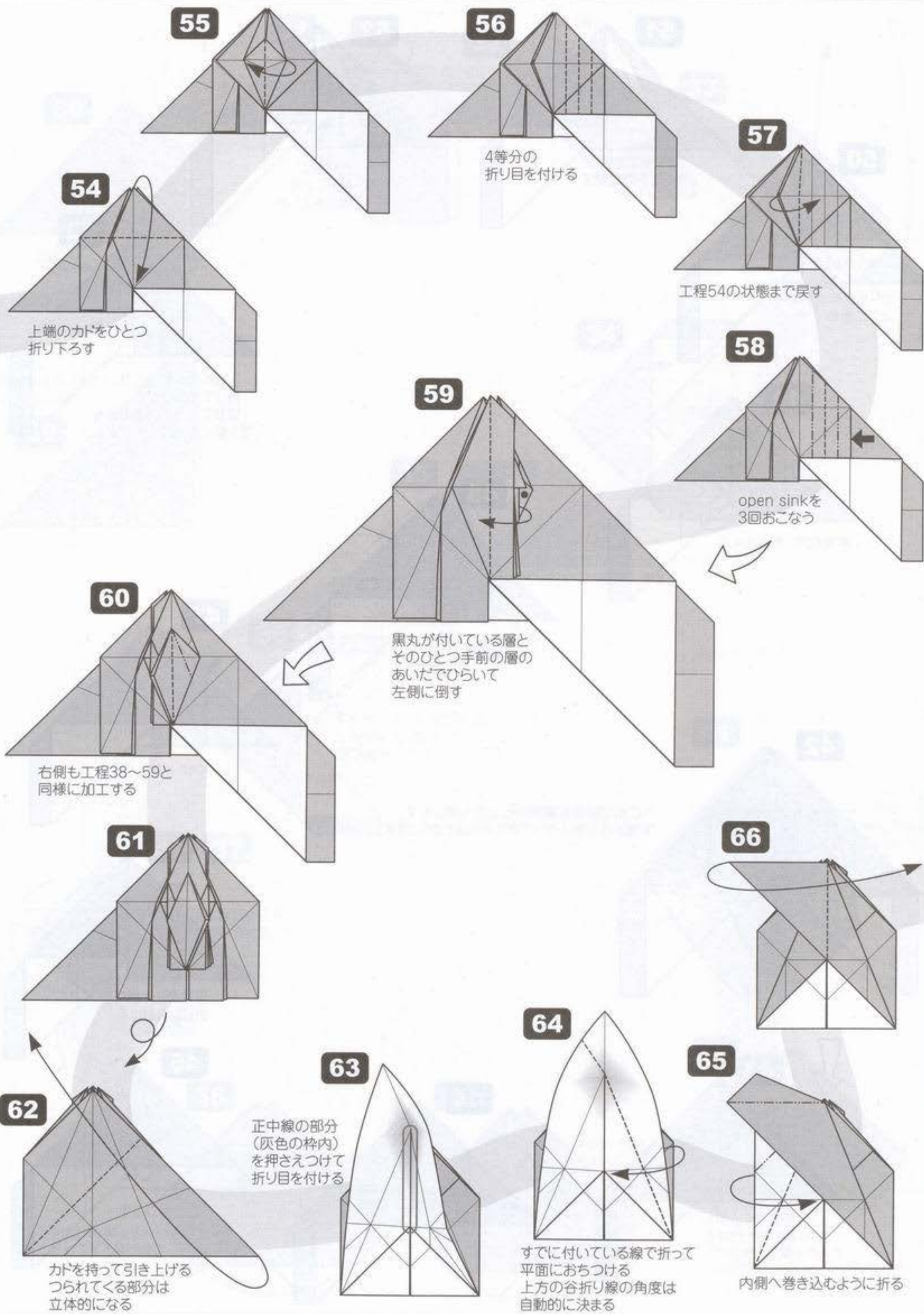
43

手前側の1層に
折り目を付ける

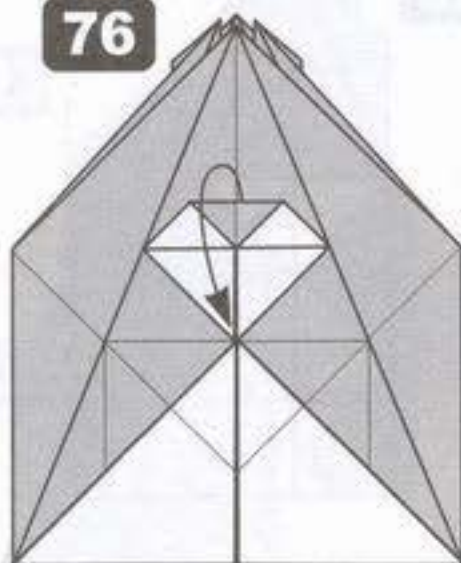
44

45

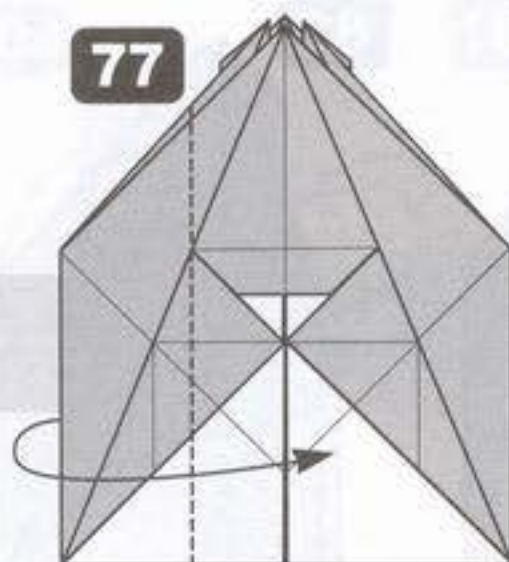
ひらきつぶす



76

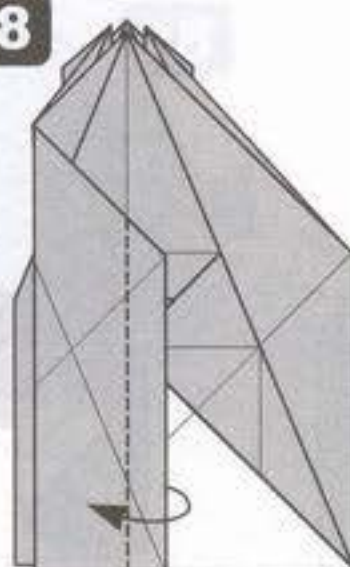


77



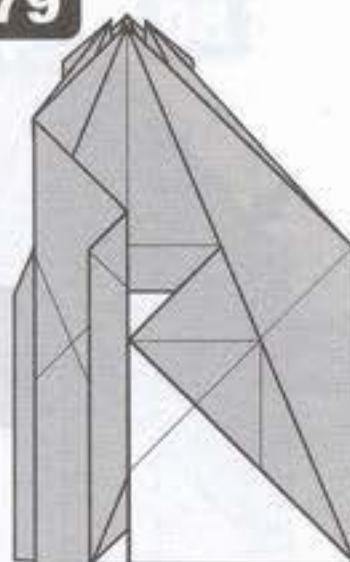
手前側の層の
カドの位置で折る

78



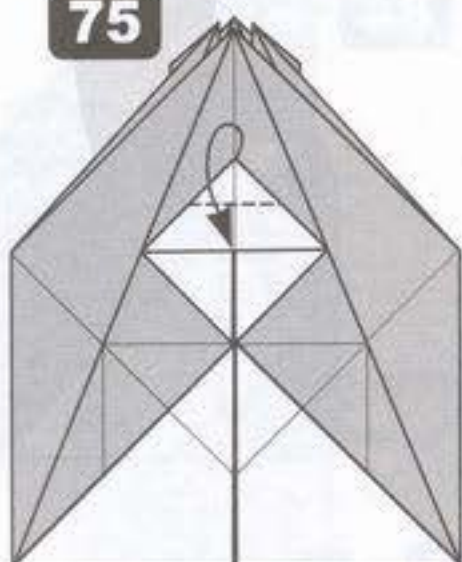
正中線の位置で折る

79

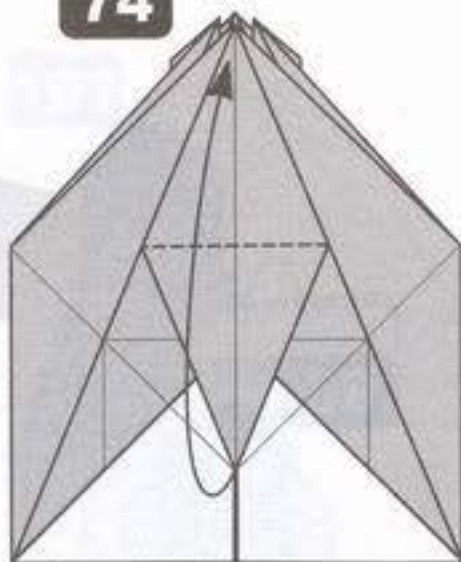


工程77の状態まで
戻す

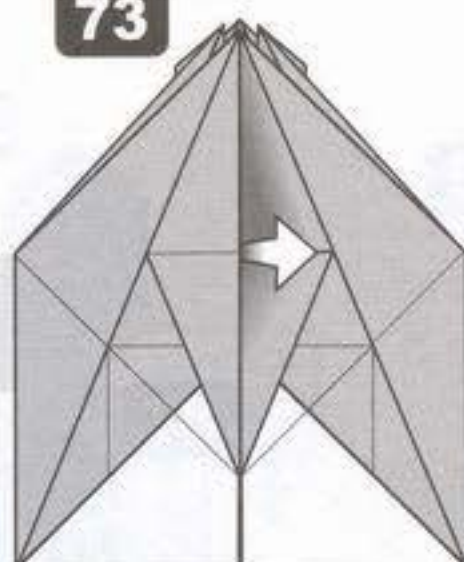
75



74

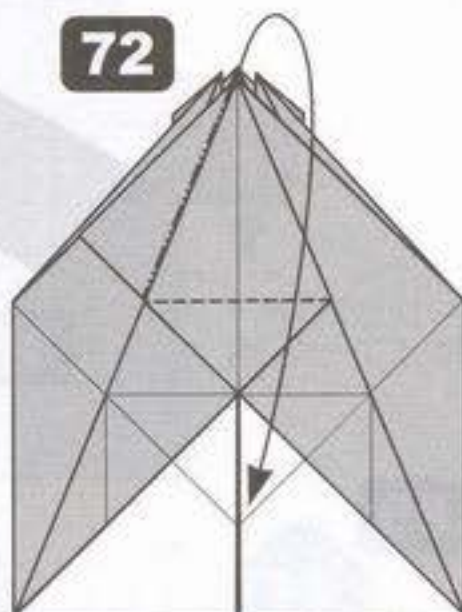


73



open sinkを戻すような感覚で
内側に重なっている層を引き出して
次の図のような形状にする

72



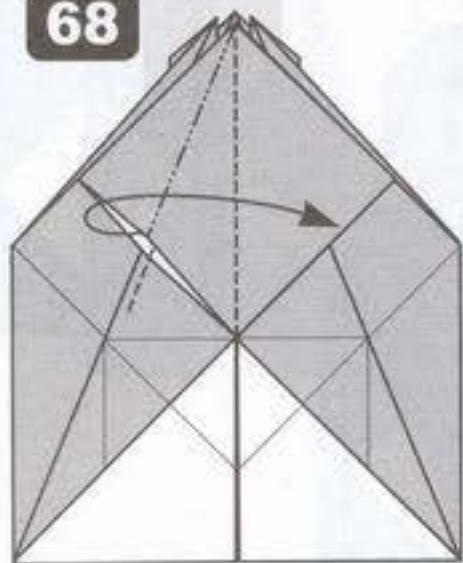
手前側のカドを折り下ろしながら
つられてくる部分をひらきつぶす

67



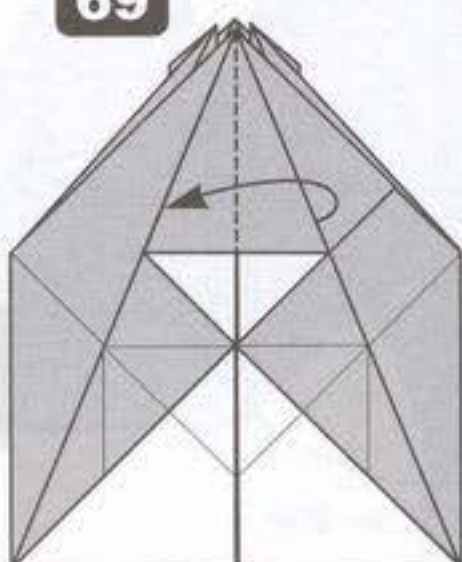
内側をひらき
つぶす

68

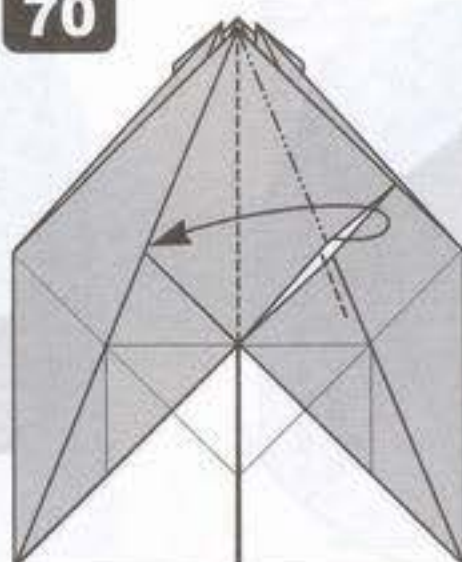


内側をひらきつぶす

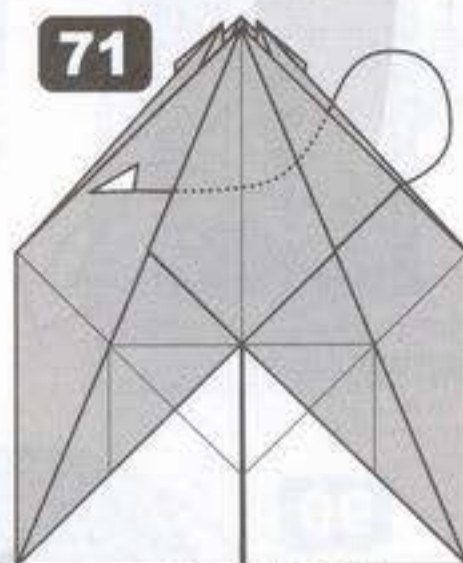
69



70



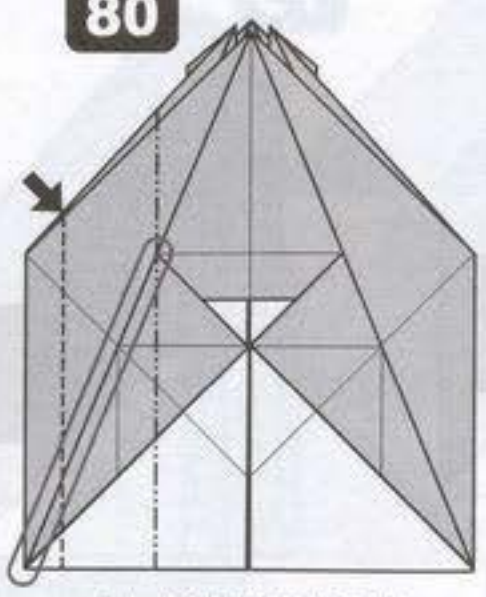
71



一番手前側のカドを
中割り折りのように
左側へ押し込む

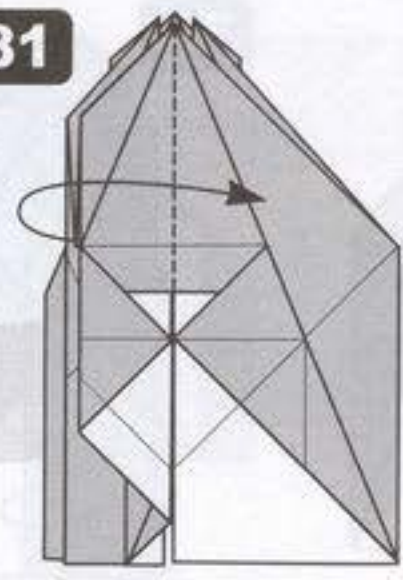
右側も
工程68～69と
同様に加工する

80



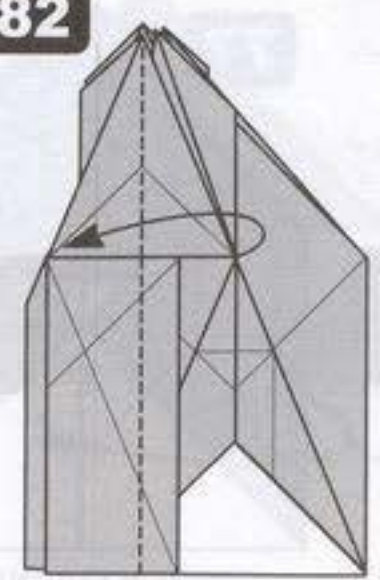
open sinkを2回おこなうが
灰色の枠で示した部分(手前側の層と
2番目の層の重なった部分)は
closed sink的に扱う

81



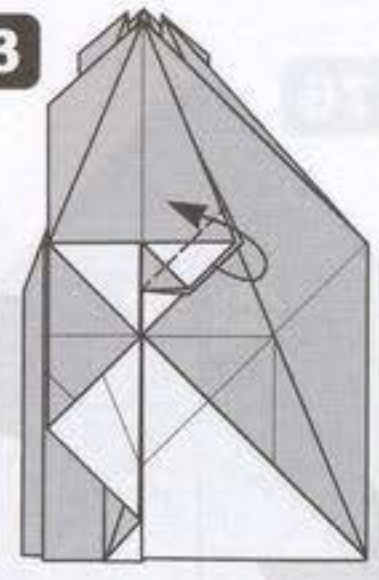
カドの位置で手前から
4層目のところでめくりながら
つられてくる部分を
ひらきつぶす

82

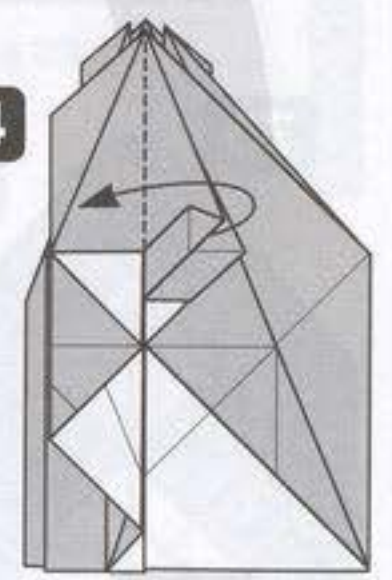


カドの位置で
手前から3層をめくる

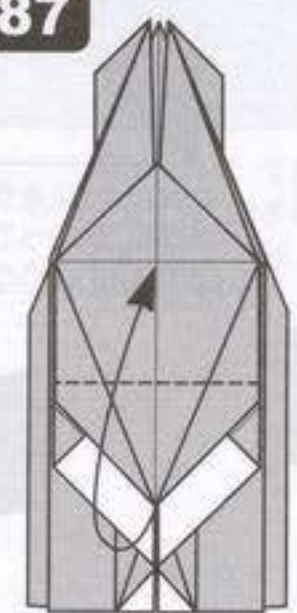
83



84

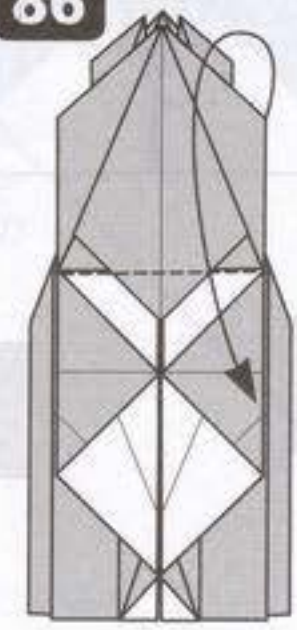


87

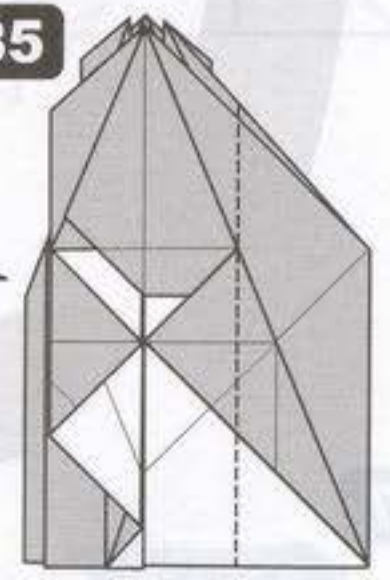


手前側のカドを
交点に合わせて
折り上げる

86

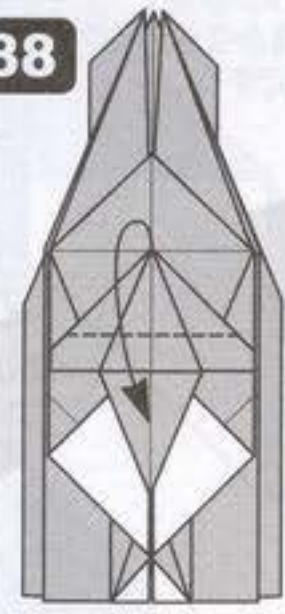


85



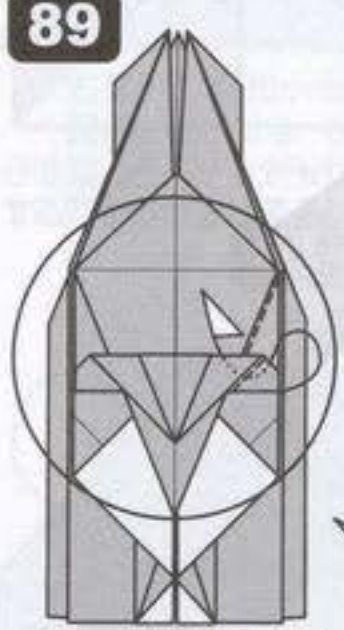
右側も
工程77~84と
同様に加工する

88



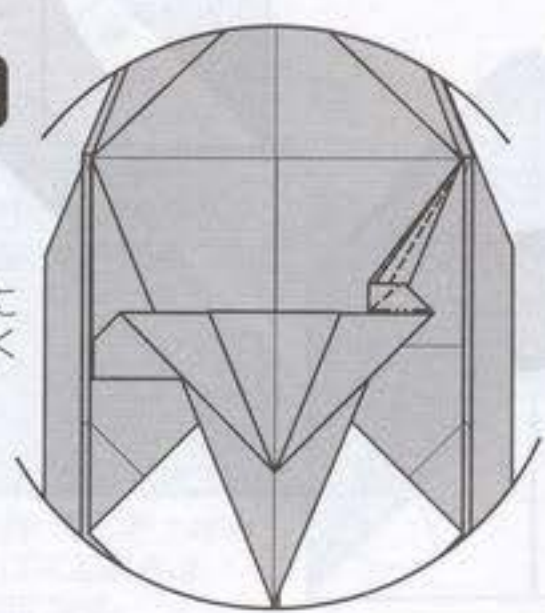
この工程では
明確な規準はない

89



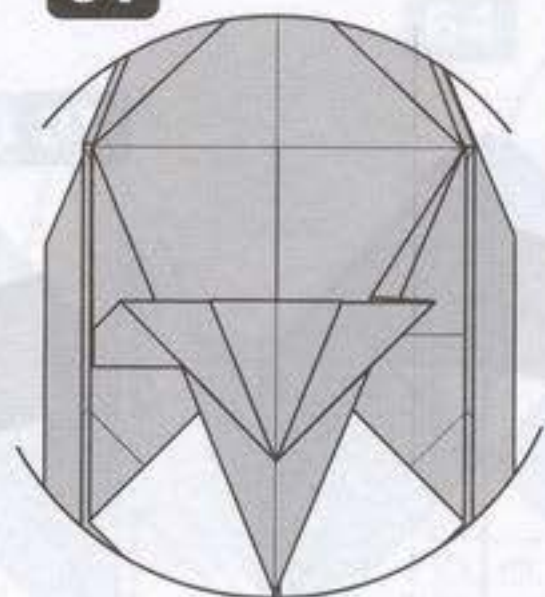
ふちに沿って中割り折り
次の図で円内を拡大

90



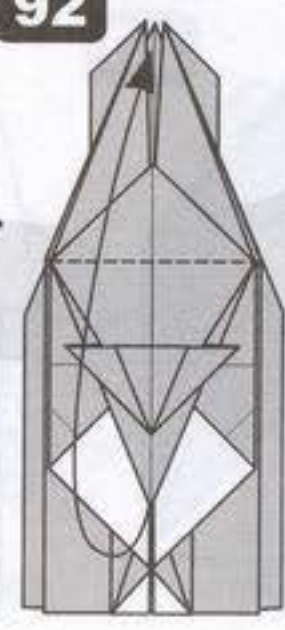
中割り折りの
折り込んで細く
する

91

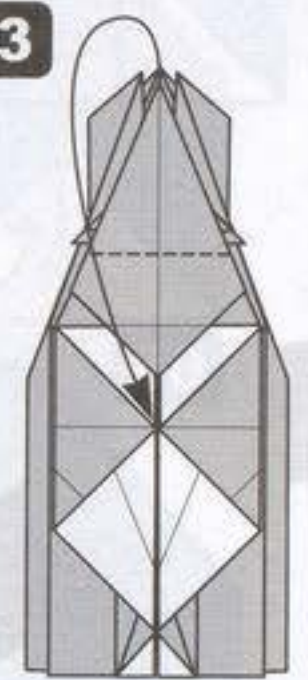


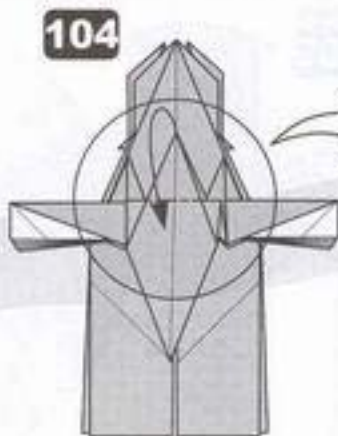
左側も工程89~90と
同様に折る

92

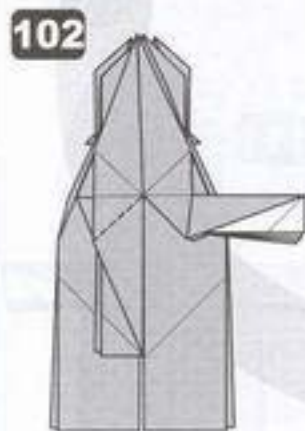
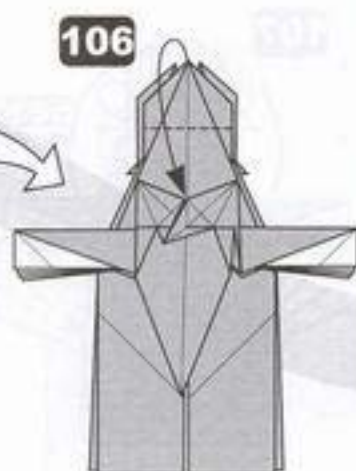
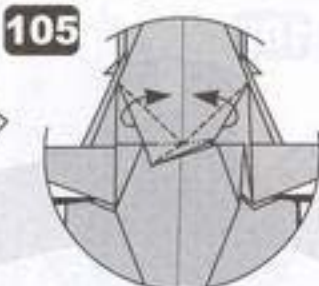


93

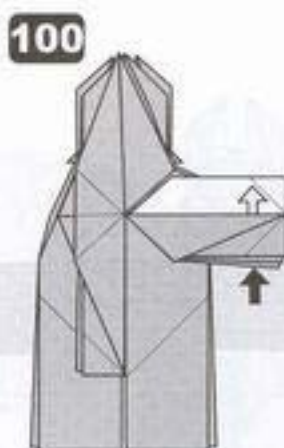
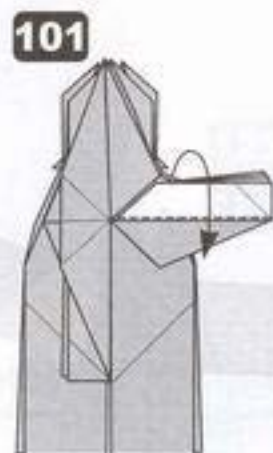




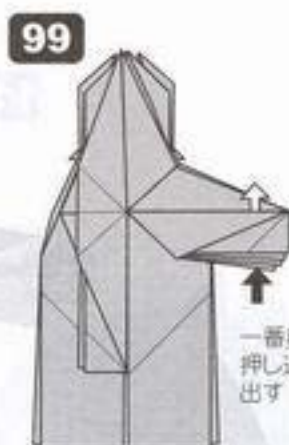
カドを垂直に立てる
次の図で円内を拡大



左側も工程96~101と
同様に加工する



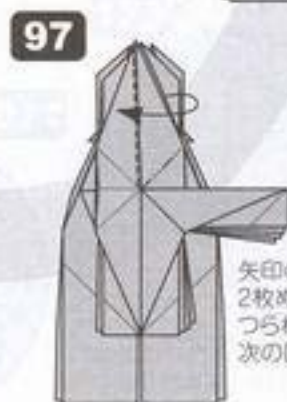
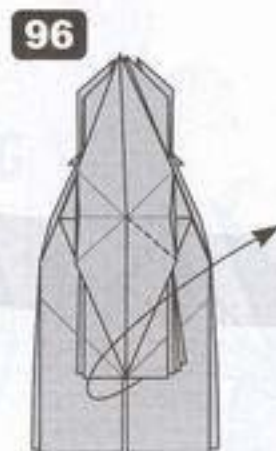
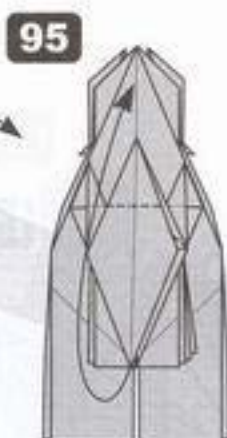
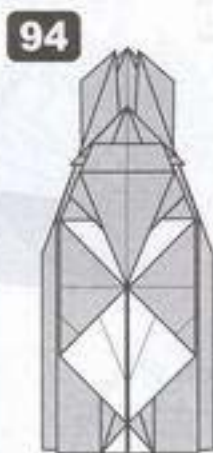
さらに3箇所を
奥側から順に押し込んで
上方に出す



一番奥側のヒダを
押し込んで上方に
出す

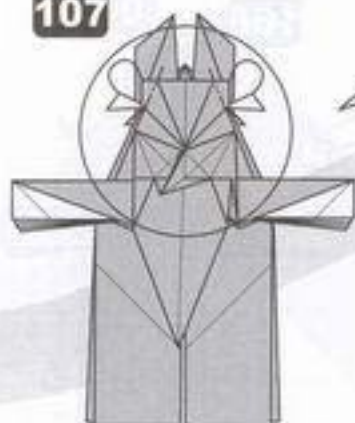


回転させるように
裏側へ折り込む



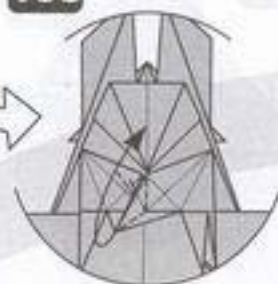
矢印の起点部分で
2枚めくる
つられてくる部分は
次の図のようにする

107



次の図で円内を拡大

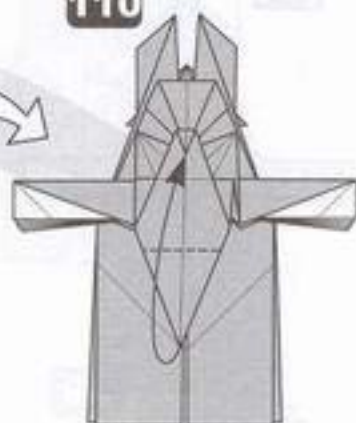
108

2層重なった部分のあいだを
ひらきながらカドを押さえて
平面にする

109

3分の1ぐらいの
ところで折る

110

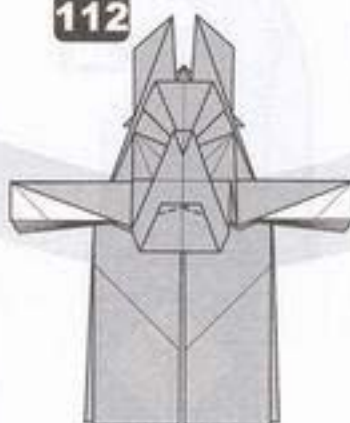


カドに合わせて折る

113

回転させるようにして
引き上げる
白い部分はきちんと折るが
根元の部分はまだ
しっかりと折らなくてよい

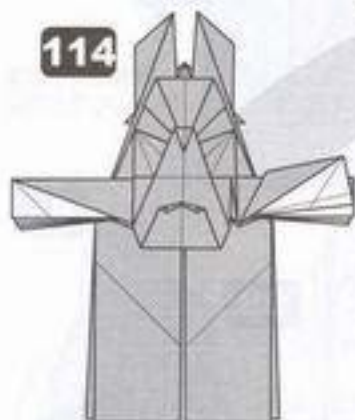
112

少しだけ折り返して
口らしくする

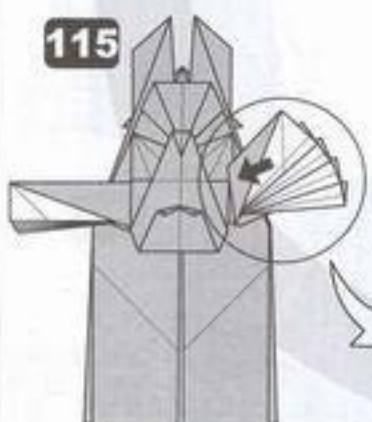
111

半分の位置で
裏側へ折り込む

114

残り3箇所のヒダも同様に
回転させるようにして引き上げる

115

矢印の部分をしっかりと
押さえて平面におちつける
次の図で枠内を拡大

116



117



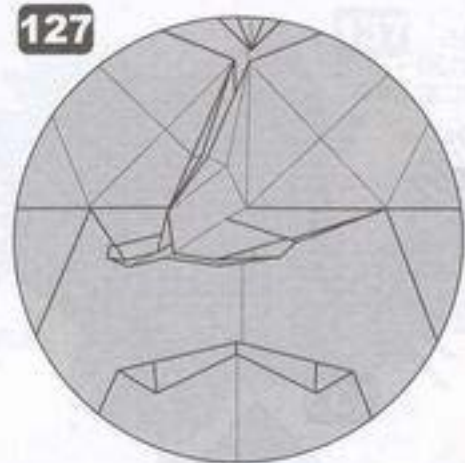
118



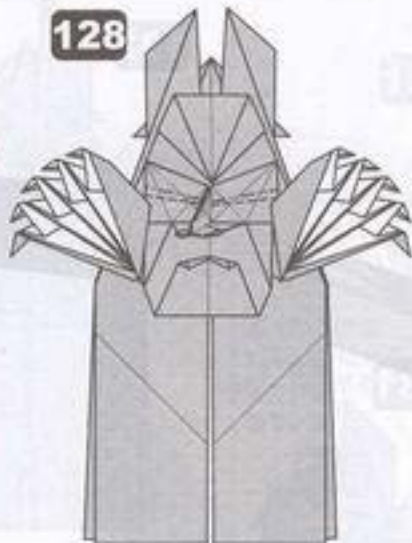
119

残りの
3箇所についても
工程116~118と
同様に折る

127

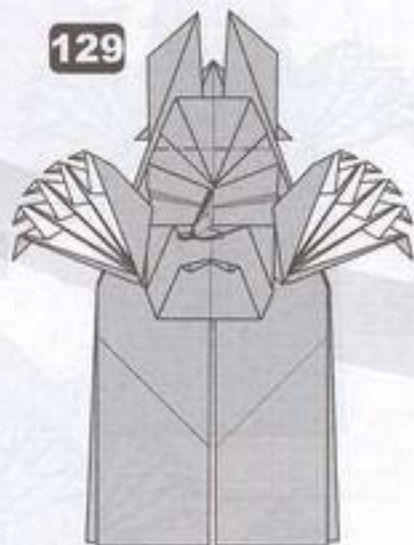


128

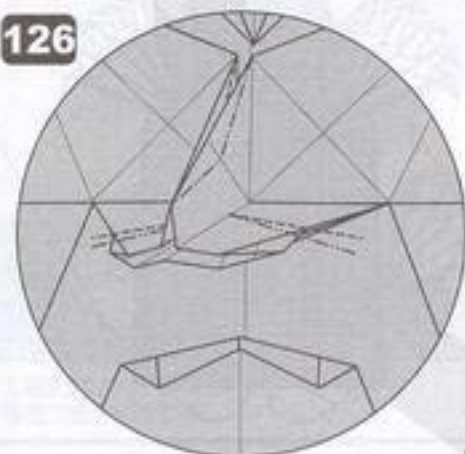


後ろ側へ
少し倒すように折る

129

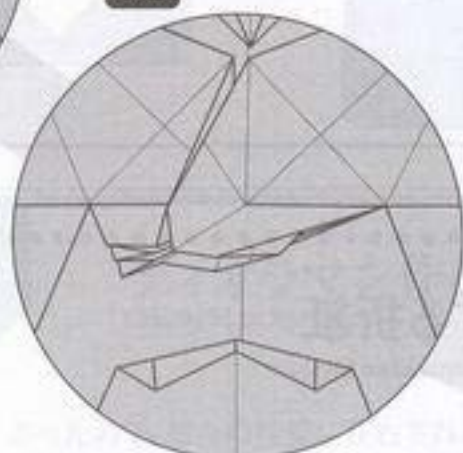


126



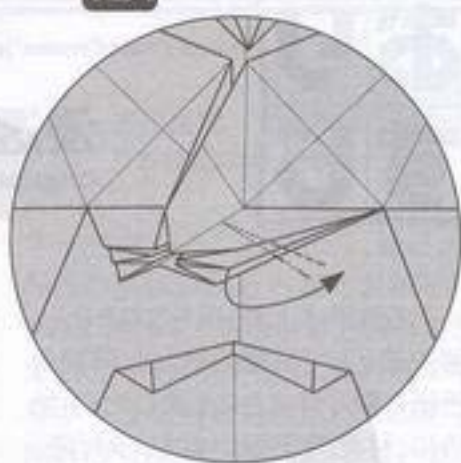
真らしい形に整える

125



左側も工程124と
同様に加工する

124



3層重なっている部分の
真ん中の層を
回転させるように引き出す

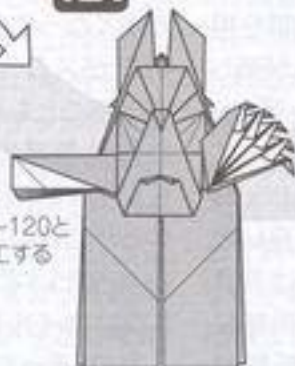
120



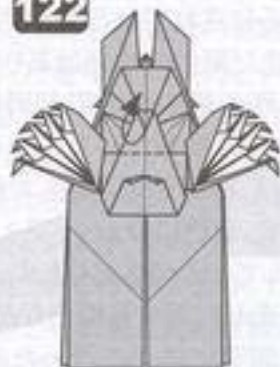
カドの先端を
裏側へ少し折る

121

左側も
工程113~120と
同様に加工する



122



中央部のカドを工程106の
状態に戻して立てる
次の図ではこのカドの
周辺のみを拡大

123



すでに付いている線の位置で沈めるが
上方に立っている2層はclosed sinkに
そのほかの層はopen sinkにする
(7角錐の形に沈めるとよい)
次の図で先端部をさらに拡大

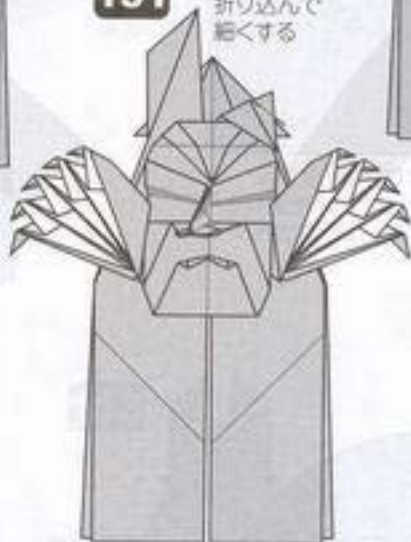
130

巻くようにして
手前側へ折る

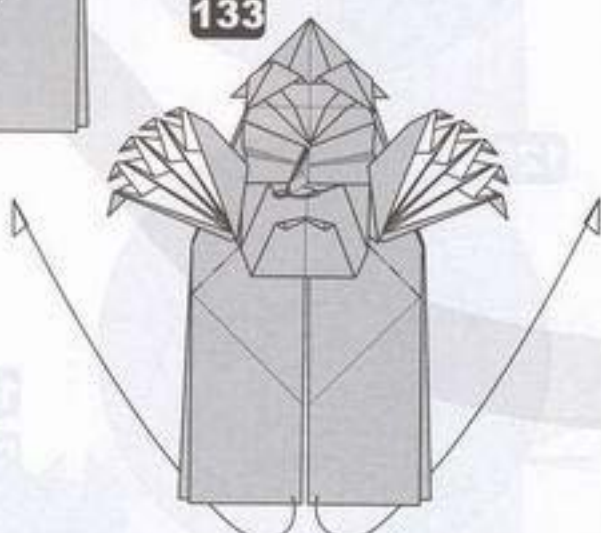
132

左側も
工程130~131と
同様に加工する

131

裏側へ
折り込んで
締める

133



Origami ("Fold-Creases")

浸透する折紙

Origami Permeates My Life

柏村卓朗

Kashiwamura Takuro

折る欲求は止まる所を知りません。解決策として日常の細かな時間を折紙に費やすことにしました。手始めに、移動時を狙います。歩行時、バスの中、電車内。電車内での折紙経験はよく聞きます。移動中の折紙で難しいのは、机がない所でしょうか。初めの折りがうまく決まりません。それでも続けていくと、荒さは残るものの折れるようになりました。学んだ事は、基準角度での折筋は結構交わる(レプタイル的性質)、野外でのホイル紙は太陽の反射光が目当たる可能性があり危険である、タント紙頑丈など様々です。貴重な折紙タイムとなった移動時ですが、折紙に集中する余りに「歩行速度の低下」「降車駅を乗り

過ごす」「知人がいても気付かない」など問題が浮上してきました。特に歩行速度の低下は著しいと思われ、おばあさんに追い抜かれた時は我ながら驚きました。ゆっくり歩いて事故に遭わないのは良いのですが、移動がないがしろにされている感が否めません。まだまだ努力の余地はありそうです。

料理の最中も活用が可能と考えました。特に麺類をゆでている時間を用いれば、時間制限を課した折紙が楽しめます。自然にウェットフォールディングをしている時もあります。紙によっては色素が付着する場合がありますので、料理再開時には手を洗った方が良いでしょう。また、大きい声では言えませんが、眠気覚ましとしての折紙に気付いて以来、眠い授業での折紙は

有意なものと考えています。このような付加的な折紙が本来の活動を高める場合もあるという認識は折紙の普及において重要な役割を果たすのではないかと密かに感じている次第です。

主に活用する時間について述べてきましたが、スタイルも大事ですね。両手が空くようなカバンと指先がなくなっている手袋は便利です。折紙がスムーズに取り出せる状態であることも必須です。現在、折った作品を適当にポケットに入れてしまうので、手頃なケースを探している所です。いずれ折紙用コートとか作りたいですね。ここは普通紙、ここはホイル紙、そこを開くと作品入れて、そっちは展開図が!